

図書館ネットワーク研修会の記録

平成27年2月6日（金）午後2時～4時50分

於：埼玉教育会館 201 会議室

参加者 24名

講演

『「Web 版 ISBN 総合目録」の概要と汎用性』

間部 豊 氏（帝京平成大学講師）

【講師紹介】

委員長：帝京平成大学現代ライフ学部講師の間部様から御講演をいただきたいと思います。まず、講師の紹介ですが、平成7年4月から埼玉県立図書館に勤務をされて、平成20年4月から北陸学院大学短期大学部の講師としてレファレンスサービスと電子図書館の動向に関する研究を行う傍ら、図書館学の教鞭をとられていました。平成24年に北陸学院大学短期大学部の准教授となり、平成25年からは帝京平成大学現代ライフ学部経営マネジメント学科の講師として活躍しておられます。それでは、御講演よろしく願いいたします。



講師：ただ今御紹介にあずかりました、帝京平成大学講師の間部と申します。本日は短い時間ですが、よろしく願いいたします。本日は『「Web 版 ISBN 総合目録」の概要と汎用性』ということで、実際に画面を見ていただきながら、私の作っているWeb版のISBN総合目録について御紹介させていただこうかと思っております。

はじめに私は、もともと埼玉県の県立図書館職員をしておりまして、その後金沢にありますが短期大学で司書課程の教員をしておりました。昨年からは現在の帝京平成大学において同じく司書課程の教員として勤めさせていただいております。その他の図書館にかかわる仕事としましては、現在、日本図書館協会の図書館雑誌編集委員を勤めさせていただいておりますので、そちらの方でも皆様方には日ごろから大変お世話になっているかと思っております。研究テーマなのですが、こちらのISBN総合目録もそうなのですが、情報検索システム、それから最近ではレファレンスサービス、それから電子図書館・電子書籍などを中心に進めさせていただいております。

【本日の内容について】

本日の内容については、トピックが四つに分かれまして、初めに Web 版 ISBN 総合目録とはどんなものなのかということについて、概要をお話しさせていただこうかと思えます。その次に具体的に、埼玉県内高等学校 Web-ISBN 総合目録という事例がございますので、そちらの事例について御紹介させていただきたい。そのあとに今後の可能性ということで、Web 版 ISBN 総合目録をどのように使っていけば、今お使いの ISBN 総合目録よりもより使い勝手のよい検索が提供できるのかといったことについてお話しさせていただきたいなと思えます。最後にまとめということにいたしたいと思えます。

【Web 版 ISBN 総合目録とは】

初めに Web 版 ISBN 総合目録ですけれども、ISBN を唯一の書誌・検索語として作られた総合目録という意味では、今まで皆様がお使いいただいている、桜井氏が作られた ISBN 総合目録とまったく同じものです。こちらのプログラムは、桜井氏が作られたプログラムには、そのコンセプトをお借りしまして、Web 化を個人的に行っていたので、桜井氏にも、こういったものを作りますということで御報告して御了解をいただいております。これを Web ページにすることによってどんな意味があるのかということなのですが、一つはプログラムの配布というものが不要になる点は大きいと思えます。現在はおそらく皆様方の図書館にデータをメールか CD-ROM かを用いて頒布されているかと思うのですが、そういった作業が無くなります。また、具体的に入れたい端末にインストールする作業があるかと思えますけれど、そういったものが不要になりますので、事務作業という点において作業の効率化が図られるのではないかと考えています。

それから 2 点目。こちらはインターネットに接続できれば、ブラウザで使える総合目録となりますので、図書館でインターネットに繋がっている端末、あるいはタブレットや携帯電話のようなものであっても、ブラウザでさえあれば、インターネットの接続環境にさえあれば、こちらの ISBN 総合目録を使えるということになります。その点はこれまでに比べて、大きなメリットかなと考えております。

3 点目。他のデータベースとの連携ということが可能性として挙げられます。こちらにつきましては後ほど細かくお話しできればと考えています。

【事例紹介・「埼玉県内高等学校 Web-ISBN 総合目録」について】

では具体的に、埼玉県内の高等学校で行われている Web 版 ISBN 総合目録というものについて御紹介させていただきたいと思います。先に少し導入に至るまでと現状についてお話しさせていただきます。埼玉県高等学校図書館研究会、通称高図研と呼ばれているのですけれども、高図研では 2002 年ごろから高校図書館間の相互協力について様々な調査研究をされておりました。その中で総合目録が作れないかということが一つの目標となり、2005 年に県立図書館に、県として何か上手い方法がないかと御相談をされ、私は、当時職員でしたけれど、Web 版 ISBN 総合目録はどうかという話が出ました。それを実際に委員の方に見ていただいて、これなら使えそうだとということで試行版というものが始められて、その後正式な導入に至っております。

現在の状況は、2007 年に正式稼働して以来、概ね年 2 回毎年データを更新されております。当初は図書館協力ウェブサイトで管理していたのですけれども、現在は ISBN 総合目録委員会という独立した組織を設けまして、総合目録のデータの収集・更新・維持管理などを行っております。当初は参加校 88 校で始まった Web 版の ISBN 総合目録ですが、現在は埼玉県立図書館、それから埼玉県立総合教育センター資料室の資料を含めましてデータは提供されておまして、現時点では県内の高校の 90 パーセント以上、137 校が参加している総合目録となっております。

こちらが蔵書統計になるのですけれども、参加校が増えまして、また県立図書館・県教育センターの蔵書が加わりましたので、年々全体でみた場合の総所蔵冊数とタイトルで見たときの総タイトル数というものは伸びております。2014 年度現在の情報では、総タイトル数 947,000 タイトル、総所蔵冊数は 418 万冊という大型の総合目録となっております。

また、実際に利用はどうかということですが、高図研では、この 2 年ばかりで、相互貸借に関する細かい調査が行われるようになったのですが、2012 年には全体の相互貸借のやりとりが約 7,700 冊だったのですけれども、翌年には 12,000 冊というふうに、かなり伸びております。

その中で、ISBN 総合目録を用いた相互貸借はどうだったのかというと、それぞれ 1,450 冊、2,120 冊あまりと、だいたい全体の 2 割をちょっと切るくらいの数字が ISBN 総合目録を使ってやりとりがされた数字になります。

総合目録を使った割にはそれほど使われていないのかなとの印象かと思われまますけれども、少し理由がございます。埼玉県の高校図書館は、いくつかの地域に分かれてネットワークのグループを作っております。もともとネットワークのグループの中で資料のやりとりをするというのが慣例となっておりました

ので、もともとそちらの中で所蔵情報を共有されている場合は先にそちらで調査して、相互貸借のやりとりを行って、自分のブロックにないものについては、ISBN 総合目録を使って調べて依頼する、というような2段階の相互貸借のやりとりがされているようです。

こちらが埼玉県高等学校図書館研究会で使われている ISBN 総合目録になります。

高図研のホームページの中の1コンテンツとしてWeb版ISBN総合目録が入っています。ですので、画面でいうと右下のあたりの小さい部分に表示されているのですが、ちょっと表示領域が少ないので、使い勝手としては本来私の方で作った時の意図とは違うようになっているのですが、ISBNで検索をして結果を表示する機能自体は皆様がお使いのものと全く同じです。

こちらが埼玉県高等学校図書館研究会のホームページになります。このコンテンツの中にWeb版ISBN総合目録があります。このようにちょっと小さい画面なのですが、ISBNを唯一の書誌検索キーとして検索するだけの目録で、こういった仕組みで稼働しております。実際に検索してみたいと思いますが、ISBNを入れて検索ボタンを押すと、はじめに入れたISBNそのものをここに示します。その下に10桁、13桁のそれぞれハイフンありなしのISBNをどんな形になるのか表示するようになっています。その下に高等学校のエリアごとに東西南北で分けまして、所蔵館というものが表示されるようになっています。高校図書館の4ブロックに加えて県立図書館の所蔵というものが調べられるようになっております。この仕組み自体はおそらく、皆様がお使いいただいているISBN総合目録と全く一緒です。

このWeb版ISBN総合目録が、皆様がお使いのものとちょっと違うのは、複数の書誌をまとめて検索する機能があるということです。

拡張検索という画面を設けているのですが、ISBNを10件までまとめて検索できるようになっています。これは、おそらくISBN総合目録を使って所蔵を調べる時というのは、リクエストを受けて書誌を確定させて、自館で持っていない資料について他の館の所蔵状況を調べたい時に使うのだと考えていたのですが、1件1件検索しても同じ結果が得られるのですが、1件1件ISBNを入れて、また戻ってという作業が煩雑なのかなというふうに考えましたのでまとめて検索するという機能を付けてみました。

このようにISBNをまとめて改行した形で入れていただいて、検索を押すと、今6件分ですが、6件分の結果を一気に表示することができます。今、とっても見づらい画面になっていますけれども、どうしてこんなに見づらいかと言いますと、元々、もっときれいに表示するように作っていたのですが、高図研のホームページのデザインにちょっと合わなかったので、高図研の方で独自

に体裁をくずしてしまったのです。今 6 件検索しましたが、6 件分の結果がまとめて表示できる。例えば、六つ目のリクエストカードを見て、六つ目に直接とんでそこだけ情報を見るという使い方をすれば、使用に足りるのかなということでこのような機能を付けてみました。こちらは高図研の中でも使われている機能のようです。

どうしてこんな風になったかという、高図研の方では、なるべく自分たち、図書館の職員だけがこの ISBN 目録を使う環境下においてコントロールしたい意識があったようで、例えば生徒に公開するとか、そういったことはあまり考えられていなかったようなので、高図研のホームページに ID とパスワード入れないとログインできないといったホームページの中にこちらの総合目録を置いて管理されているということです。

本来は、このように、画面が成型されて情報を出力するようになっているのですがけれども、先ほども申し上げたように、高図研のホームページの中との調和が取れないということでこの形態をはずしてしまったので、少し見づらいようになっています。

先程の拡張検索については、本来は 1 件 1 件きちんと分割して表示されるようになっておりました、検索結果がもうちょっとわかりやすく表示されるようにできています。

【「Web 版 ISBN 総合目録」の今後の可能性】

この Web 版 ISBN 総合目録というものを今後、どんなことができるのかということで、可能性という話をさせていただこうと思います。

一つは、総合目録を作る意義を考えてみたいと思うのですが、皆様日頃おそらく、横断検索システムというものを使われて、様々な所蔵調査等を行われているかと思います。実際に、横断検索システムの性能はかなり上がっていますので、このあとの御講演のカーリルさんなどの反応速度も速く状態情報まで見られる、そういった大きなメリットがありますので、じゃあなんであえていまさら、総合目録をつくらなければいけないのかという疑問が当然あるかと思います。なので、総合目録の次にというものについて、少しお話をさせていただこうかと思っています。

初めに、皆様御承知のことだと思われかもしれませんが、総合目録と横断検索システムの違いというものについてお話をさせていただきます。

総合目録と横断検索システムの最大の違いは、そのシステムの中に書誌、本のデータですね、資料のデータがあるかどうかということにあります。総合目録の方は、書誌、本・資料のデータを持っています。そこにさらにどの図書

館がその本・資料をもっているのかということ、所蔵情報を持っているかということですね、事前にどの本に対してどんな図書館がその資料をお持ちなのかを目録を作るときに統合されて、検索結果として得られるように調整されているわけですね。それに対して、横断検索システムは基本的に自前には何もデータがない、インターネット上に公開されている各図書館さんの OPAC を随時照会して行ってその結果を集めて表示するというシステムが横断検索システム。こういった大きな違いがあります。

そうしますと、総合目録のメリットというのはなんなのかと言いますと、大きく二つ考えられると思います。一つは、その書誌と所蔵情報があるということ。もう一つは、検索以外のことですね。

活用ということを考えて、一つは検索に対する活用。もう一つは書誌・所蔵情報自体の活用が考えられます。検索ということ考えた時に、事前に書誌が書誌同定されていますので、一般的に横断検索システムよりも速く検索結果を表示することができます。おそらく皆様がお仕事の中で ISBN 総合目録を敢えて使うのは、県等が提供されている横断検索システムよりも結果を速く得られるからだだと思います。なので、そういった点を考えると業務上どうしても、1件2件調べるなら横断検索システムですけれども、30件100件と調べなければならない時に何分もかけて調査をすることが難しいので、こういったものが活用されているのだと思います。

それからもう一点、検索結果の評価が容易であるということ。つまり、調べた結果というものについて、横断検索システムであればこの本とこの本は同じ本なのかなということを検索した職員目で確認していかなければいけないのですが、総合目録の方は、あらかじめ資料の情報というものが統合されていますので、さがしているこの本に対して持っている図書館はこれっていうようにすぐに判断できるわけです。なので、検索者の情報技術の差というものに依存せず誰でも簡単にこの本はここにあるという情報を見ることができる。それが一つ目のメリットだと思います。

それから、もう一つは、いま埼玉県でも行われていますけれども、資料保存事業などに用いることも考えられる。総合目録は書誌を持っていますので、総合目録内にある資料で、1冊しかない本はなんなのか、とかいうことを抽出して活用することができるわけですね。いま、皆様のほうにたぶん単館所蔵リストというものが県立図書館から配布されていると思いますが、それは、総合目録というものが本のデータ・書誌を持っているので具体的に1館しか持っていない、情報を持っているから簡便にそういったリストを作成できるというメリットがあるわけです。

そう考えると、一見いいことだらけなのですが、総合目録にはデメリ

ットというものもあります。

一つはですね、作るための様々な事前作業が必要だということですね。各図書館様が現在行われていると思いますけれども所蔵データというものをシステムから抽出してそれを県に提出するという手間があり、県はいただいたデータを統合して目録として機能するように作らなければいけないわけですね。作りあがったら、今度はそれを実際に更新したデータを各図書館さんに配布する作業がありますので、横断検索システムと比べてひと手間事前にやらなければいけないことがあるということがあげられます。それからもう1点、これが大きいと思うのですが、そこで取りまとめられた所蔵情報はあくまで何年何月現在のデータをくださいということで、その時点での所蔵館情報ですから、リアルタイムの情報ではないということになります。そういう意味ではなかなか最新の本を検索しても出てこないというデメリットはあるわけですね。

1点ほど補足させていただくと、現在、県などで作られている ISBN 総合目録あるいは Web 版 ISBN 総合目録もそうですが、基本的にいただいたデータを普通のパソコンで加工して、だいたいまあ 30 分、そのくらいの状態ですぐデータをつくることができます。それこそ、通常の意味での総合目録をつくるよりははるかに簡単に構築することができます。それから、実際の目録の運用ということを考えて、例えば三か月間は相互貸借申込不可とか、様々な制約があるかと思うのですが、ある時点でくぎられた総合目録であっても相互貸借ツールとして使うことを考えれば、一定の時期で更新されているならば十分に耐えるのではないかと考えております。

それから4点目、Web 版 ISBN 総合目録のデメリットというものも、一応指摘しておかなければいけないかと思うのですが、これは、いまお使いの ISBN 総合目録と全く同じ欠点があるわけですね。つまり、ISBN でしか検索できないということです。実際におそらく皆様実務で行われていると思いますが、片方で何らかの書誌ツールあるいは目録を開いておいて、もう片方で ISBN 総合目録を開いておいて、先に ISBN を他のツールで調べて、そのあとコピーペーストかなにかして ISBN 総合目録で調べるという、2段階の検索をされていると思うのですが、そういった手間がどうしても発生してしまう。それからもう1点、ISBN が無い資料は当然検索できないということが言えます。これについてはいくつか解決策があるのではないかと考えておまして、いま現在皆様は ISBN だけをデータとして提出していただいていると思うのですが、実際に皆様の MARC は、全国書誌番号であったり、あるいは、各社の民間 MARC 番号というものがデータとしてお持ちなわけですから、そういったものを含めた総合目録を使えば ISBN の無い資料についても検索対象として取り込むことができるのではないかと考えております。

こういったデメリットがございますので、それを解決するためにどうしたらいいかが他のデータベースとの連携ということになります。

2点ありますが、1つは、現在の ISBN 総合目録もそうですけれども、調べた結果に対して、借りられるのがどうかという情報はそのままでは見られないわけですね。つまり、貸出中なのかどうか、予約が何件あるのかっていう資料の動き、状態情報はわかりませんので、検索結果から直接各図書館さんの OPAC に連携をして、貸出中なのかそうでないのか、予約が何件あるのかの情報を取得するという仕組みを作れば、そういったデメリットが無くなるのかなと思います。また、そこからさらに直接その図書館に相互貸借などの申込みを出来るようになれば、今まで以上に使い勝手がよくなるのではないかと考えております。

それからもう1点、当然 ISBN から検索するという事は、検索結果は速くできるわけですが、先ほども申し上げたように、一般的な書誌的事項から検索は出来ませんので、何とかそこを解決できないかというふうに考えたのが、今回の、新しいシステムの提案ということになります。

イメージとしては、こんな感じになるのですけれども、左側の四角で囲っている部分が、ISBN 総合目録側が用意する部分です。一般的な検索画面というものを用意しておきまして、書誌自体は他のデータベース、例えば NDL サーチですとか、その他各社が提供している書誌ツールですとか、そういったところに検索をしに行きます。他の書誌データベースに普通にタイトルとか著者名でアクセスをして、例えば何とかという本の書誌というものを受け取ります。受け取ったところから今度は、その書誌データには当然 ISBN が含まれていますので、こちらの目録の中で ISBN 総合目録にアクセスして、どの図書館が持っているか自動的に検索させます。そうすると、何という本がどの図書館にあるという情報がここで完結しますので、その結果を表示する、というような仕組みが作られるわけです。

実際に動くものというものを具体的に既に作っております。今回紹介する試行版のものは NDL サーチのデータを使わせていただいて、書誌から ISBN 総合目録の結果を表示するという仕組みを作りました。このシステムのよいところは、もし実際にこういったものを稼働させるという時に、ISBN 総合目録に携わる皆様の作業は全く変わらないということです。今まで通り、ISBN のテキストデータを提供するだけでよいということです。県立図書館も今まで通り、統合プログラムを使って ISBN を総合目録の書誌データ、所蔵データを作ればよい、ということになります。変わるのは、検索部分だけが変わるということです。ですので、皆様方の御負担とかお時間とかは全く変わらないということになります。

一般的な書誌画面というものを用意しまして、そこから検索キーを入れて、

検索をかける。例えば、タイトルに『県庁おもてなし課』と検索語を入れて検索をすると、結果としては、書誌とそれから所蔵館データというものを同時に表示させることができます。

こちらが、実際に今試行的に作ったものになります。これまでの ISBN 総合目録と大きく違うのは、一般的な書誌的事項ですね、本のタイトルとか著者名とか出版社とか出版年そういったものから検索できるという点ですね。従来どおり検索したい場合には、通常の ISBN から検索できます。通常の本名から検索語を入れまして、検索をかけますと、このように本名から検索をし、本名・著者名・出版社・出版年・ISBN・NDC といったものを NDL サーチから受け取って、ISBN がデータの中に含まれておりますので、これを使って、このまま自動的に所蔵情報を ISBN 総合目録から検索して表示します。なので、今まで 2 段階で皆様が他のツールを使って ISBN を確認してそこからコピーして ISBN 総合目録を検索するという作業をされていたかと思うのですが、そういったことはしなくていい。直接結果を得ることができます。

このように、一般的な書誌的事項から検索できるようになると、使い勝手という点では、これまでの ISBN 総合目録より格段に上がるのではないかというふうに考えております。これは Web 版の特徴ですが、例えば、同じ著者の他の著作はどうなのだろうという時に、そのままリンクが貼ってありますので、併せて検索するような、横断的に検索していくようなことも可能になります。ちょっと有川浩さんでやるとかなり時間がかかってしまうのですが、一応やってみます。このあたり検索速度の向上というのは対応が可能でして、現在は、書誌検索と同時に蔵書検索も並行して行っているのですが、ちょっと遅くなっています。このように、いま有川浩さんで検索したら 81 件ヒットしました。最初の検索結果からもう一回検索ということで、著者名で検索いたしましたけれども、こんなふうに著者からの検索なども可能になります。

この検索結果ですが、通常は実際に皆様が検索結果を所蔵館があるのかないのかを見ていかないといけないのですが、相互貸借等で使うことを考えて、初めに実際に所蔵館があるデータだけまとめて表示させて、その後に所蔵館が無かったデータを表示させる、このあたりは加工の問題ですので、そうではなくて五十音順に並べほしいとかいうような要望があれば変えられると思います。ちなみに所蔵無し、書誌、高校図書館の方ではお持ちでないという情報も一応表示するようになっております。こういったものをお使いいただくと、これまでの ISBN 総合目録の様々な欠点というものが、克服できるのではないかとということで、一つの試行版ということでご紹介いたしました。

【まとめ】

最後になりますけれども、これまで御覧いただいたように、総合目録というものは、総合目録としての機能があって、この利点は横断検索システムにはないというものもあるかと思えます。今回ご紹介いたしました Web 版 ISBN 総合目録は、これまでの皆様の ISBN 総合目録同様に簡単にこれまでと同じ手順で容易に構築できるという点があると思えます。また、いままでも行っていたように、資料保存事業にお使いいただくというような使い方もできます。また、将来的には、こういった ISBN が無い資料にも対応できる可能性もございますので、これは今後の研究課題というふうにしていきたいと考えております。また、先程お見せいたしました、他のデータベースと連携したバージョン、こういったものも包括的に考えられればと考えておりますので、そういったものを使っていくことで、総合目録としての機能というものが高まって、皆様の図書館サービスのお役に立てるのではないかと考えております。以上で私の方の話は終わります。ありがとうございました。